

# あんぜんだより

監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石見子先生

6月に入ると「梅雨」の季節の始まりです。雨降りの日には手放せない傘ですが、正しく扱えているでしょうか。保護者の皆様が手本となる姿を子どもたちに見せながら、傘の正しい差し方・扱い方を教えて、雨が続くこの季節を安全に過ごしましょう。



## 梅雨を安全に過ごすために、傘の扱い方を教えましょう ただしい かさの つかいかたを おぼえて あめの ひも あんぜんに すごそう



かさを さす ときは りょうてで  
しっかりと にぎって まっすぐに  
たてて もとう。



かたてで もつと かさが  
ふらふらして あぶないよ。



まっすぐ たてて もたないと  
まわりが みえにくく なるよ。



ほかの ひとが いない  
ほうに むけて ひらく。



ベルトで とめて  
かさたてに 入れる。



× かさを ふりまわしたり  
ひとに むけたり しない。



× しぶきが とぶから  
クルクル まわさない。

**保護者の方へ** 傘の正しい差し方は、「両手でしっかり握り、まっすぐ立てて持つ」です。大人の握力でも、片手持ちでは傘がフラフラしたり、風にあおられてバランスを崩したりします。幼児の力では尚更です。傘を前のめりに差すと前が見えなくなり、軸を肩に担ぐようにして差すと、後ろからの音が聞こえにくくなってしまいます。傘を開く時や、閉じた後も、周りの迷惑にならないようにすることが大切です。保護者の皆様は、閉じた傘を横向きに持つと、傘の先が危険ですので、必ず下に向けて立てて持ってください。

7月号では「自転車に乗る時の注意」について取り上げます。